

磐梯吾妻地域
観光有料道路3ラインのあゆみ

半世紀の歴史をたどる



観光有料道路3ライン無料開放記念誌

福島県道路公社



目次 CONTENTS

目次	1
理事長あいさつ	3
スカイライン編	5
概要	6
経緯	8
景観	12
附帯施設（不動沢橋無料休憩所）	14
レークライン編	15
概要	16
経緯	18
景観	20
附帯施設（中津川溪谷レストハウス）	22
ゴールドライン編	23
概要	24
経緯	26
景観	28
観光有料道路3ライン通行台数の推移	30
資料編	31
福島県道路公社の概要	32
福島県道路公社の内部組織と 役・職員数の変遷	34
印刷物等で観る観光有料道路3ライン	36
観光有料道路マスコットキャラクター ”シャクリン”の紹介	38





福島県観光有料道路3ラインの無料開放を迎えて

福島県道路公社
理事長 原 利 弘

福島県道路公社が管理運営を実施してまいりました磐梯吾妻道路（スカイライン）、第二磐梯吾妻道路（レークライン）及び磐梯山有料道路（ゴールドライン）の3ラインは、平成25年7月24日で料金徴収期間満了の時期を迎え、福島県に移管され、恒久的に無料化されました。

磐梯朝日国立公園内を走る3ラインは、新緑から紅葉まで様々な自然景観を誇る全国屈指の山岳有料道路として、県内外から訪れる多くの観光客を魅了し、昭和34年のスカイラインの供用開始以来、3ラインの総通行台数は、2,290万台となるなど、県内外の交流促進や本県観光産業に計り知れない恩恵をもたらしてきたところであります。

これまで3ラインの管理運営に当っては、厳しい自然環境・気象条件の中、利用者の皆様方への安全性の確保を第一に、スカイラインの不動沢橋の架け替えや休憩施設、駐車場等の整備を進め、利便性や快適性の向上を図るなど有料道路の適正な維持・管理に努めてきたところであります。

また、平成23年3月11日発生の東日本大震災や原発事故への対応では、風評被害からの本県観光の再生に向けた呼び水とするため、福島県からの支援により全車種無料通行措置を実施し、震災前の約2倍の通行台数を記録するなど本県観光復興の一助となったものと考えております。

3ラインは、福島県に移管され一般の県道として管理されますが、恒久的無料化を観光復興の出発点として捉え、今後とも3ラインの適正な維持管理に努めるとともに、関係機関が一体となって各種誘客施策等を進め、引き続き、本県を代表する山岳ドライブルートとして多くの方々にご利用をいただき、沿線地域を始め周辺地域のさらなる発展に繋げていただくことをご期待しております。

この冊子は、無料開放を記念し、高度経済成長やモータリゼーションの進展と共に歩んできた3ラインの歴史等を後世に残すべく編纂いたしました。ご高覧をいただき、半世紀以上に亘り様々な歴史を刻んできたスカイラインを始めとする3ラインそれぞれの足跡を振り返っていただければ幸いです。

終わりに、永年に亘り当道路の建設、維持管理等にご尽力いただいた先輩諸氏のご苦勞・ご努力を振り返りつつ、ご利用いただいた多くの方々から感謝と御礼を申し上げ挨拶といたします。